

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1995. 5

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 133

日本野鳥の会 埼玉県支部

バードウォッチングの基礎英語

今や史上最高の円高、海外の探鳥も身近なものとなりました。外国のバードウォッチャーとの接触も多くなります。そんな時一寸した英語ができれば親密感が生まれ、鳥情報をもったり、さらに進んで鳥を介しての友人を得られるかもしれません。英語なんて最初から敬遠することはありません。一寸思い出して中学レベルの基礎的な語彙、文型で十分やっていけます。必要なのはその反復練習、間違いを恐れずトライすること、それに鳥名と鳥に関する一寸した専門用語を覚えることだけです。限られた紙面ですが英語への拒絶反応を捨て、逆に英語への関心をもって頂ければ嬉しく思います。皆さん、トライしてみませんか？ Let us try!

生まれて初めての外人との英会話

私. Can you speak Japanese?

外人. No.

時は昭和21年（1946年）、私は旧制中学の最終学年、その頃は終戦直後で日本は正に占領下であり、占領軍（Occupation Forces）がいたところに充満していました。私は学校で習った英語をトライしてみようと、Jeepで街に乗りだして来たアメリカ兵をとらえて、懸命の勇気を奮って話しかけたのです。答えはただ“No”でしたが、見事に本物の外人に通じたのです。さてNoと言われてその次が浮かんできません。もじもじしていると、その兵隊さんは、何か缶詰のような物を私に手渡して、

"Pre." 聞き取れない。

"How much? 「いくらですか？」

"Present" 「プレゼント」

"Thank you." 「ありがとう」

宝物のように大事にして、家に持ち帰りよく見るとそれはダークグリーン色の缶詰でその上に"BREAKFAST"（朝食）と印刷されており、内容物が克明に書いてありました。辞書を引いて一つ一つ興奮して調べたのを今でも鮮やかに覚えています。

些細なことながら私の英会話初体験は英語に対する強烈な好奇心を爆発させてくれたのです。

好きこそ物の上手なれ

「パチンコのお株を奪う英語塾」と川柳に歌われる程の英語熱。テレビ、ラジオを始め街には素晴らしい語学の教材が満ち溢れてい

ます。それらを買うことは簡単ですが、それをものにするのは至難の技です。皆さんは当然鳥は大好きでしょう。それと同じように英語にも関心を持ち、ありとあらゆる場合にそれを英語で何と言うか、外人に何と説明するか、といった具合に考えるのです。鳥の勉強と英語の勉強を平行させてしまうのです。

覚え方

学校ではテストがあるのでその為に勉強を強制されますが、Bird Watcherは特に強制される訳ではありません。むしろ自主的にその場を作り出す必要があります。例えば、

A. テレビ、ラジオの語学番組の利用

自分のレベルに合ったものを厳選し、毎日、必ず声をだし反復練習すること。発音、イントネーションに特に注意。

B. 英語で鳥名を覚えること。日本野鳥の会のフィールドガイド（Field Guide -略してF.G. という）には英語版もでており、日本語版と併用すれば英名も全てわかります。

C. 全部の英名をフィールドガイド（F.G.）から覚えるのは非常に難しい。そこで、最も身近な、いわゆる「ものさし鳥」（Yardstick）的なものを大まかなグループ分け（Grouping）してとらえる。

例えば、フィールドガイド（F.G.）の各頁の右上に示されている「類」（Family）単位の名称を覚える。

アビ類……………Loons

カイツブリ類…Grebes

ウ類……………Cormorants

ホオジロ類……Buntings

ハヤブサ類……Falcons

ワシ類……Eagles

猛禽類……Raptors

まず大まかに「類」(Family)でとらえ、次のその中の「種」(Species)を特定するという手順になりましょう。

D. 鳥の各部の名称 (Topography) を覚える。

やや専門的になりますが、基本的な部位だけは是非とも覚えたいものです。これもフィールドガイド (F. G.) に詳述されていますが、Field で実用度の高いものは、

初列風切……Primaries

次列風切……Secondaries

頭頂……Crown

過眼線……Eyestripe

喉……Throat

胸……Breast

腹……Belly

後頸……Nape

背……Mantle

腰……Rump

尾羽……Tail

上尾筒……Upper tail coverts

下尾筒……Under tail coverts

足指……Toe

嘴……Bill(あえてMandibleを用いることはない)

フィールドにて

Field で巨大な猛禽(Raptors) がでた、そんな時、

Look at that big one!

(あの大きいのを見てごらん!)

Look at that huge raptor!

(あのでっかい猛禽を見てごらん!)

It's got seven primaries. It must be an eagle!

(初列が7枚だ。ワシに違いない!)

(It's got) a big yellow bill. Pure white tail and shoulder! It sure is a Stellers Sea-Eagle!

(嘴は大きくて黄色。真白の尾と肩。間違いなくオオワシだ!)

といった会話があるでしょう。興奮もあり、

文法などあまりこだわらずに、単語の羅列になり、余分なものは自然に省略されるのが普通です。

さらにフィールドを想定して、どんな言葉がよく使われるか、拾い出してみました。

すぐそこに — Right there!

Right over there!

木の上に — On the tree.

梢に — On top of the tree.

地上に — On the ground

その他の前置詞 in, by, under, above, を適宜使って鳥の位置を示すことができます。

動態(Movement またはAction)を示すには、

飛んでいる — Flying

帆翔 — Soaring

滑翔 — Gliding

停空飛翔 — Hovering

歩く — Walk, Walking

跳ねる — Hopping

What's that one soaring high, right over that white cloud?

(あの高いところ、あの白い雲のところで帆翔しているのは何だ?)

It's going away! (遠ざかっていく)

It's coming back! (戻ってくる)

It's (It has) gone! (行ってしまった)

It landed somewhere. (どこかに降りた)

要するに

以上はバードウォッチングの中でどのような英語をどのように使うか、動機づけなどについてごく限られた経験に基づいて書きましたが、要約すれば、

* 中学程度の基礎英語で十分。

* 鳥名をできるだけ多く覚える。

* 英語の環境を自ら作る。

* 反復練習。

* チャンスを求めてTry, Try and Try!

新たなものを習得するためにはある程度の努力も必要 No pain, No gain! です。

Let's work hard, and do our best!

(ハクトウワシ)

1994年 秋 埼玉県のタカの渡り

日本野鳥の会埼玉支部研究部

はじめに

1994年9月25日(日)、鐘撞堂山、堂平山、天覧山の3ヶ所で、10月2日(日)物見山で、サシバを中心とする秋のタカの渡り調査(表1)が行われた。9月25日は午前中雨が降り出しそうな曇り空で午後から晴れ間が広がった。10月2日は朝のうち曇っていたがすぐに晴れ上がる天気だった。

当日のタカの渡り調査結果

本年は去年とほぼ同じく県内のタカの渡りの主要ルートである丘陵地帯と低山地帯の境界周辺JR八高線に北から南まで4ヶ所、調査地を設定した。9月25日は天気にめぐまれなかったため観察数が少なかったが、10月2日行なった物見山では好天気にめぐまれ例年通りの観察数を得た(表2)、(表3)。

おわりに

調査両日、40名もの会員諸氏のご協力をいただき感謝を表する。(執筆 小荷田行男)

表1 調査地と調査時間

調査地	市町村名	調査者名	調査日	調査日時
鐘撞堂山	寄居町	森本國夫 他11名	9/25	8:30'~ 13:00'
堂平山	都幾川村	松井昭吾 他11名	9/25	9:00'~ 12:00'
物見山	東松山市 鳩山町	榎本秀和 他4名	10/2	9:20'~ 12:00
天覧山	飯能市	佐久間博文 他9名	9/25	8:30'~ 15:40'

表2 渡りのタカ類のカウント数

調査地	ミサゴ	ハチクマ	トビ	オオタカ	ツミ	ハイタカ	ノスリ	サシバ	ハヤブサ	タカSP
鐘撞堂山	0	0	1	1(2)	0	1	0	15	0	0
堂平山	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
物見山	0	0	0	0	0	0	0	122	(3)	0
天覧山	0	1	5	2	3	1	0	30	0	1
合計	0	2	6	3(2)	3	2	0	167	(3)	1

(注) ただし()は渡りでないと思われる個体数

表3 タカの渡りの本調査日におけるサシバの数

年	月/日	天気	金鑽神社	鐘撞堂山	堂平山	物見山	白金山	高指山	天覧山	堀之内
1994	9/25	くもり時々	-	15	0	-	-	-	30	-
	10/2(注)	はれ	-	-		122(注)	-	-	-	-

(注) 物見山のみは10/2に調査を行った。

地鳴きコーナー

ドキドキしたたん鳥会

上野越郎(川越市 9歳)

2月19日(日)森林公園ではじめてのたん鳥会、ぼくはドキドキした。はじめに見たのは、シロハラ、次にセキレイそれからすしのぼってカワラヒワを見た。みんなで池に

いった。池には、マガモ、オシドリ、コガモやいろいろな、水鳥がいた。

梅林に行くところちゅうに小さな橋があった。そこで、おどろいたのは、ノスリとカラスが遊んでいたことだ。しばらくするとそこにハイタカが入ってきた。太陽の近くだったので

そうがんきょうでのぞけなかった。でもとてもおもしろかった。カラスは、はばたいてまわってとんでいたがノスリは、はばたかないでわをえがきながらとんでいた。橋をわたって、売店などがある休けい所についた。そこでトイレにいった。その帰りのことだ「ウソがいる」と聞いた。そうがんきょうでは、よく見えなかった。でもしんせつなおじさんがぼうえんきょうで見せてくれた。とてもうれしかった。くちばしの下が赤くてはらが茶色っぽくてとてもかわいかった。梅林のところでは、甘酒のむりょうサービスがあってとても甘酒がおいしかった。それからチェックリストで見た鳥をかくにんした。全部でぼくのリストには、25しゅるいの鳥がかくにんできた。とてもたのしかった。また、こんどもいいけたらいいな。

伊豆沼の探鳥会に参加して

入山 博(春日部市)

伊豆沼へは、今回が2回目の探鳥です。前回に見たマガンが夕方沼に帰ってくる時の大編隊飛行を見たくて参加しました。

1日目は、伊豆沼の野鳥観察館から内沼まで歩き、観察館では頭上をハヤブサが舞い、凍った湖面から飛び立つオジロワシを見た。また、ホオジロガモやベニマシコも現れ、あまり埼玉では見る機会の少ない鳥達を見ることができ、参加者を喜ばしてくれました。

夕方、観察館でマガンの大編隊飛行を見て再度感激した。

料理が並ぶまで、鳥合わせをし、食事をしながら、参加者全員のスピーチを聞いたりの楽しい親睦会…。鳥の話を酒の肴にするとこんなにおいしいものかと実感しました。

2日目は、早朝、マガンの飛び出しを見てから、蕪栗沼へ行きました。蕪栗沼でもオジロワシが出現。出現した瞬間、さっきまでのんびり採食行動をしていたマガンが一斉に飛んで逃げてしまいました。マガンは目がいいなと感心し、危険を察知する能力も優れているなと思いました。

帰りの電車の中では、ビール片手にまたまた鳥の話。いい気分で家路につく事ができ、

とても幸せな2日間を過ごす事ができました。

最後に、小学生程度の作文を読んでもくれた『しらこぼと』読者と、2日間楽しい思い出を作ってくれた参加者の皆様と伊豆沼に感謝します。どうもありがとうございました。

埼玉県支部に入会して

小林 堅一(入間市)

初めまして、入会してまだ1年未満の私ですが、初めて参加した探鳥会でカワセミを見た時から週末になると高麗川でカワセミのビデオ撮影をしています。カワセミ以外にも、アオジ、イカルチドリ、ルリビタキ、ジョウビタキなどいろいろな鳥に出会います。それと人との出会いもあります。

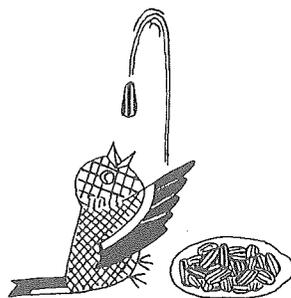
仲間4人でカワセミ、ヤマセミの写真展を開いた人、池袋のサンシャイン60付近で電器店を営んでいる人、20年前写真家嶋田忠さんと行動を共にした人など、鳥だけではなく人との出会いが楽しくなってきました。本会に入会し、探鳥会に参加して本当によかったと思っています。ありがとうございました。これからも楽しい探鳥会を期待しています。

行事案内のカット

渡辺 敦(名古屋市)

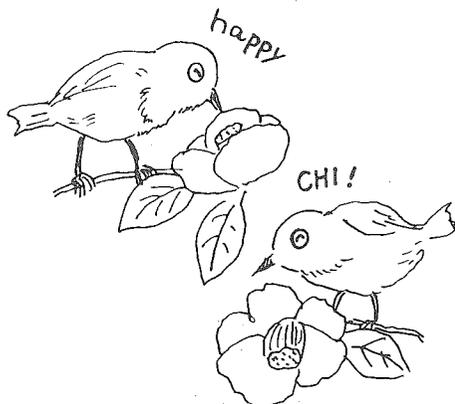
5月号の行事案内のカット、わかりづらいかも知れませんが、とうとう『しらこぼと』が登場!! あ、鳥のシラコバトでなく会報の『しらこぼと』ですよ、あしからず。

キビタキくん、行事案内を見て「今度は皆でオラッチを見にくるだね」。なんて一生懸命におめかしをしています。「最近ではビデオカメラを持ってくるのもおるから油断できねえよ」



中村 治(上福岡市)

- カンムリカイツブリ ◇3月14日、幸手市外国府間の権現堂調節池で1羽（田畑孝）。
- ゴイサギ ◇3月4日、浦和市の別所沼会館前の林の中で5～6羽。昨年から越冬中（小林力雄）。◇先日、越谷市でタコ糸に絡まり、弱って飛べなくなって持ち込まれたゴイサギが元気になった（自力でドジョウを計30匹位食べた）ので3月14日10時30分頃放鳥しました。元気に飛んで調整池のヨシの中に入りました（青沼俊雄）。
- ヨシガモ ◇2月24日、川越市の伊佐沼で♂♀各1羽。干潟で採餌（中司隆由）。◇3月12日、鴻巣市の荒川馬室冠水橋上流で♂♀各3羽。橋の上から見たので頭頂の赤紫色がハッキリ見えた。いつも湖上で遠くにいるのを見る場合が多いので近くで見られて感激（内藤義雄）。◇4月1日、北本市の荒川高尾冠水橋上流で♂♀各1羽（内藤義雄）。
- オジロワシ ◇2月28日午前9時30分、寄居町波久礼のダム上空で若鳥1羽。カラス4羽にモビングされて旋回する。尾は白色。トビより異常に大きく、翼は直線形。約5分後、上流に飛び去る。感動した（山口輝雄、博）。
- ノスリ ◇3月12日、浦和市秋ヶ瀬のさくら草公園そばのゴルフ場の柵上で1羽（星崎杉彦）。◇4月1日、熊谷市大麻生の野鳥



（押川 歳子）

- の森で2羽。今年越冬していた個体です（菱沼一充）。
- イカルチドリ ◇2月25日、飯能市下畑、成木川で1羽（藤森三治・恵美子）。
- タゲリ ◇2月8日、越谷市恩間新田で10羽（神場真文）。
- ハマシギ ◇3月21日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間で約20羽（中司隆由）。
- ヤマセミ ◇2月25日、日高市の高麗川で1羽（小林堅一）。◇3月5日、日高市のドレミファ橋付近の高麗川で1羽（上野越郎、倫郎）。◇3月25日、坂戸市の高麗川城山橋上流で2羽。つがいで木の枝に並んでいた（新井昭吉、黒木昭雄、増尾隆）。
- カワセミ ◇2月25日、入間市の入間川で2羽（小林堅一）。
- アオゲラ ◇3月5日、大宮市片柳の稲荷大明神の森で♂1羽（工藤洋三）。
- アカゲラ ◇2月16日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で♀1羽（藤森三治・恵美子）。◇2月27日、大宮市日進1丁目で1羽（森本國夫）。◇4月1日、熊谷市大麻生の野鳥の森で♂1羽（菱沼一充）。
- ツバメ（初認） ◇3月14日、鴻巣市緑町で1羽（榎本菜摘野）。◇3月19日、浦和市大崎の見沼田んぼで1羽（藤野富代）。
- ミソサザイ ◇2月15日午後4時30分、浦和市南部領辻地内の加田屋川で1羽。まさか半分ドブ川のこんな所に来ているとは、ちょっと信じられない。でも本当にミソサザイなのだ（兼元義裕）。
- ハクセキレイ ◇3月23日、大井町の勤務先の倉庫に巣を作り、巣立ちも確認していたが、今回工場新設のため倉庫を取り壊すことになった。解体の終わった日、積み上げられた廃材の中を2羽が飛び回っていた（青山紘一）。
- ビンズイ ◇3月9日、大宮市日進1丁目で1羽（森本國夫）。
- モズ ◇3月12日、浦和市秋ヶ瀬のさくら草公園で♂が♀にさかんに餌を与える求愛給餌をする（星崎杉彦）。
- ヒレンジャク ◇2月23日、戸田市道満の釣り堀横の駐車場で2羽（高橋達也）。

ルリビタキ ◇1月14日、日高市の高麗川で♂1羽(小林堅一)。◇2月2日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で♀1羽(藤森三治・恵美子)。2月23日、長瀨町の宝登山山頂近くのロウバイ園で♂1羽。満開のロウバイの枝で、大勢のロウバイ見物客を全然恐れず枝から枝へと飛び回り、けっこう人気者になっていた(中司隆由)。

イソヒヨドリ ◇2月25日、JR大宮駅4番線ホーム(浦和寄り)で落ちていたお菓子をうまそうに食べていた(工藤洋三、中村榮男)。

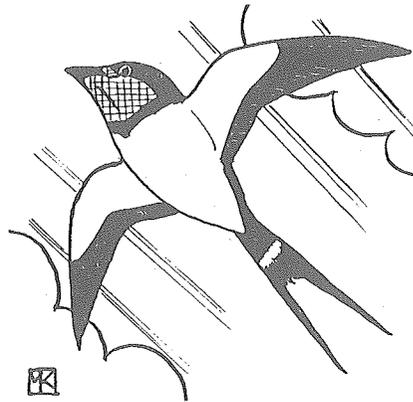
トラツグミ ◇3月3日、大宮市日進1丁目で2羽(森本國夫)。◇3月7日早朝、利根川導水路荒川落口付近の屋敷林で鳴き声を聞く(長島岩雄)。

アカハラ ◇2月15日、吉見町の八丁湖畔の森で1羽(栗原省二)。◇2月16日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で♀1羽(藤森三治・恵美子)。◇3月12日、戸田市道満のキャンプ場で多数のツグミの中に1羽(星崎杉彦)。

シロハラ ◇2月6日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で1羽(藤森三治・恵美子)。◇3月3日、大宮市日進1丁目で1羽(森本國夫)。

ウグイス(初鳴き) ◇1月31日、鴻巣市緑町で。まだうまくない(榎本菜摘野)。◇3月6日、鴻巣市利根導水路落口付近で(長島岩雄)。◇3月7日、吹上町荊原で(栗原省二)。◇3月7日、浦和市皇山町の自宅で(星崎杉彦)。◇3月11日、菖蒲町の神明神社の境内で「ホーホケ」と鳴く(内藤義雄)。

キクイタダキ ◇2月26日、浦和市南部領辻の鷲神社で2羽(工藤洋三)。



(神場 真文)

ヒガラ ◇2月26日、浦和市南部領辻の鷲神社で1羽(工藤洋三)。

カシラダカ ◇3月7日、吹上町大芦砂原地区のスーパー堤防工事現場付近の草原で40~50羽。毎年飛来している所だが、今年はスーパー堤防の工事で、大型重機の出入りが激しく、今まで何回か出向いたが、工事もほぼ終わりに近い今日やっと確認できた(栗原省二)。

マヒワ ◇3月2日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で♂1羽(高橋達也)。

ウソ ◇2月27日、吾野町の顔振峠、富士見茶屋前の桜の木で♂5羽♀4羽。桜の花芽をさかんについばんでいた(中村榮男)。

シメ ◇3月19日、深谷市上柴町西の自宅の庭で1羽。水を飲みに来る。2月10日について2度目の来訪(森義雄)。◇3月26日、坂戸市西坂戸の自宅の庭で1羽。餌台から地面に落ちたパンを食べる(増尾隆)。

ニュウナイスズメ ◇4月1日、熊谷市大麻生のゴルフ場東側の林で、スズメと混群になっていたので数は正確にはわからないが20羽以上はいたと思われる。(菱沼一充)。

表紙の写真

『気ままにバードウォッチング』掲載作品

アマサギ(サギ科)

1992年4月。江戸川に近い吉川町の一面のレンゲ畑に、アマサギが40~50羽、チュウサギが20~30羽降りていた。

車の中で見ていると、10羽前後のアマサギが、餌を探しながら、みんな同じ方向に移動

してくる。どれも夏羽になっているが、それぞれ赤褐色の濃さが違う。いちばん濃い一羽を選んで撮影した。

このレンゲ畑、今は工業団地の造成で、跡形もない。 佐久間孝夫(浦和市)

行事あんない



(渡辺 敦)

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会 埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月7日(日)

集合：午前8時45分 JR宇都宮線蓮田駅東口
バス停前、集合後バスで現地へ

担当：中島(康)、浅田、入山、中村
(栄)、吉安、玉井

見どころ：ゴールデンウィーク最後の休日、
亜麻色のアマサギ、黄金の斑のムナグ
ロ等を探しに黒浜沼へどうぞ。連休ボ
ケが整えられ、スッキリ気分で出勤ま
ちがいなしですよ。

本庄市 阪東大橋探鳥会

期日：5月7日(日)

集合：午前8時50分 JR高崎線本庄駅北口、
集合後バスで現地へ。十王バス新伊勢
崎行き8:55発乗車、阪東大橋南詰下車

担当：町田、小池、林(滋)、小野沢、関
根、根岸、和田、中島(章)、石井
(博)

見どころ：鮮やかなコバルトブルーに衣替えし
た阪東大橋の上空を飛ぶコアジサシ、
そしてツバメチドリに会えたらごきげ
んです。シギ・チドリもきっと待っ
てくれるはずですよ。当日は橋をバ
ックに記念撮影を予定しています。

東京都・三宅島探鳥会(要予約)

期日：5月12日(金)~14日(日)

定員に達しましたので締切りました。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月14日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:
03発に乗車

担当：菱沼(一)、森本、小池、田口、菱沼
(洋)、斉藤、根岸、中島(章)、和
田、石井(博)

見どころ：早いものです。100回記念探鳥会
からもう1年たちました。大麻生にも
夏鳥たちがやってきました。川面をす
べるように飛ぶコアジサシ、高らかに
さえざるオオヨシキリやセッカ、托卵
の機会をねらうカッコウ。ほんとうに
にぎやかです。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：5月14日(日)

集合：午前7時30分 丸山公園北口駐車場
交通：JR高崎線上尾駅西口4番バス乗場より
西上尾車庫行き(畔吉廻り)7:07発に
乗車、「前原」下車徒歩10分

担当：立岩、吉原、阿久沢、乗田、浅見、
丹、永野(安)、永野(京)、川那
部、宇原

見どころ：新緑が陽光に輝く5月。すがすが
しい早朝の静けさを破るのはどんな夏
鳥でしょうか。カッコウ、それともオ
オヨシキリ…。早朝探鳥会ならではの
爽快さを味わいにどうぞ。

栃木県・奥日光探鳥会

期日：5月20日（土）
集合：午前9時20分 東武鉄道日光駅前、9時26分発湯元行バスに乘車。赤沼下車（到着は10時30分ごろ）
交通：春日部7:42発（快速）日光行に乘車、切符は「日光フリーキップ」がお得
解散：午後3時半頃、湯の湖にて
担当：中島（康）、松井、福井
見どころ：5月の日光は最高、キビタキ、ホオアカ、ノビタキなど夏鳥がいっぱい。戦場ヶ原をわたる薫風をからだに受けて歩きましょう。約6km歩きます。足指はしっかりと。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：5月21日（日）
集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、岡部、倉林、嶋田、若林、兼元
見どころ：見沼たんぼでは、田植えを終えたばかりの稲が風に揺れて、初夏の鳥たち、カッコウ、キアシシギ、コチドリが待っています。彩の国三室の里へお出で下さい。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：5月27日（土）～28日（日）
定員に達しましたので締切りました。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月27日（土）午後1時～2時ごろ
会場：支部事務局 108号室
案内：行事が増えてなかなか案内が書けず、久し振りの登場です。今年の冬ほど珍鳥でにぎわった年もめずらしかっただすね。そんな情報交換の場にここがなかったことご存知ですか。「知らなかった」それは残念。それは別としても、お手伝いよろしくお願ひします。

野鳥写真クラブ定例会

とき：5月27日（土）午後2時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：今年の冬の珍鳥を見損なった人、必ず出現させます。是非ご参加下さい。

狭山市・人間川定例探鳥会

期日：5月28日（日）
集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口
交通：西武新宿線所沢8:45発に乘車、本川越8:43発
担当：長谷部、三田、石井（幸）、佐久間、小野、中村（祐）、山本
見どころ：ホオジロやセッカがさかんにさえずる季節ですが、地味なイソシギやササゴイの声にも耳をかたむけてみましょう。多数のご参加をお待ちしています。

川口市・差間探鳥会

期日：5月28日（日）
集合：午前9時 JR武蔵野線東浦和駅前
担当：手塚、伊藤、笠原
見どころ：オオヨシキリ、カッコウ、セッカ…。アシ原も森も鳥たちの歌でいっぱい。緑の風わたる差間（さしま）には是非おいで下さい。あなたにとって新たな発見がきっとあります。

大宮市・梁作川遊水池探鳥会

期日：5月28日（日）
集合：午前8時45分 JR宇都宮線東大宮駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時15分アーバンみらいバス折返場
担当：中島（康）、林（慎）、墨江、吉安、中村（栄）、玉井
見どころ：新しい茎が伸びたアシにオオヨシキリのにぎやかな声、負けずと小さな口をいっぱい開けてうたうコヨシキリ。水田ではマタシギを探して歩きます。

6月4日（日）：石戸宿定例探鳥会
：三峰神社探鳥会
：渡良瀬遊水池探鳥会

行事報告



1月15日(日) ガン・カモ類一斉調査

ボランティア: 38人

浅田徳次、有山智樹、石井幸男、石井智、入山博、内田孝男、榎本秀和、海老原教子、大武昭雄、尾崎甲四郎、神場真文、小池一男、小荷田行男、駒崎政雄、佐久間博文、鈴木和博、鈴木裕見、鈴木深雪、田邊八州雄、手塚正義、内藤義雄、中村治、中村祐子、萩原信一、橋口長和、菱沼一充、福井恒人、藤掛美紀、藤掛宮子、藤掛保司、藤野富代、町田好一郎、三田長久、森本國夫、柳原正昭、山部直喜、吉原早苗、吉原俊雄 ↪ 寒い中ご苦労様。

1月15日(日) 浦和市 三室地区

参加: 57人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ バン イカルチドリ タゲリ タカブシギ イソシギ タシギ セグロカモメ ウミネコ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 新しい参加者が多い。やはり新しい年に何かやろうと考える人がいるのだろう。お立ち台(気ままにバードウォッチング以来公認されたか)から、北宿大橋の工事が終わったので、昔のコースの橋の下を通った。三室の探鳥会のはじめは北宿通りの北側を歩いたので、なつかしい味がした。今年も三室をよろしく。(楠見邦博)

1月28~29日(土~日) 宮城県 伊豆沼

参加: 23人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガン ヒシクイ オオハクチョウ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ トビ オジロワシ オオタカ ノスリ ハイロチュウヒ チュウヒ ハヤブサ チ

ヨウゲンボウ キジ オオバン ツルシギ イソシギ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (57種) 伊豆沼は、マガンが降りるところ以外全面凍結。2万羽近いマガンの朝の飛び立ち、夕方の沼への帰着を堪能。氷上にあるオジロワシ、上空を旋回するオジロワシなど、2日間で何度も見られた。初めての参加者が多く、マガンやオジロワシに大満足。また、夜の懇親会も大変に盛り上がった。伊豆沼はいつ行っても素晴らしいが、特に1~2月は良い。(中島康夫)

2月5日(日) 長野県 軽井沢

参加: 38人 天気: 曇後雪

カルガモ トビ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ ルリビタキ シロハラ ツグミ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ ベニマシコ ウソ イカル シメ スズメ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 好評、小池リーダー作成「ミニミニコラム」の表紙には、ヒレンジャクさんがいるのに何故か出ない。前日まで好天気で、今日に限って雪とは?それでも長倉神社でウソ、湯川でカワガラス、星野でイカルの群れ、塩壺でルリビタキやベニマシコなどを観察。塩壺ホテルさんのご好意で、暖かいロビーで昼食。(解散後何人かヒレンジャクに会えた。) (町田好一郎)

2月5日(日) 深谷市 仙元山公園

雪のため中止。

2月5日(日) 北本市 石戸宿

雪のため中止。

2月11日(土、休) 栃木県 千本松牧場

参加: 40人 天気: 晴

トビ ノスリ オオタカ キジ タゲリ キジバト フクロウ コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ マヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) スタートして15分もしないうちに、牧草地にフクロウが出現。皆大騒ぎ。その後、木の枝にも止まったのを見られた。最後のハイライトは、道路の水たまりに200羽のアトリの群れが降りていて、道路からあふれるような光景に出会ったことで、これには大感激。他にも、ベニマシコ、マヒワ、ミヤマホオジロと次々に現われた。すばらしい千本松。(中島康夫)

2月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 57人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ オオタカ ノスリ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 悪い話と良い話。悪い話・その1: 野鳥の森に大量のゴミの不法投棄。いつものコースが通行不能。その2: 野鳥の森でサバイバルゲーム。当日も数人いたが、止めてもらった。良い話・その1: 越冬していたルリビタキ、アカゲラ、アオゲラたちは元気だった。その2: この冬、何度かオオタカとノスリを見かけたが、この日は両方とも現われた。特にノスリは、3羽同時に現われて、大サービス。(菱沼一充)

2月12日(日) 所沢市 狭山湖

参加: 33人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ オオタカ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツ

グミ ウグイス キクイタダキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 狭山湖の水が少なくてカモ類も少ない。それで、雑木林の鳥を重点的に見た。午前10時はウシタカの時間といったら、15分過ぎてオオタカが飛んでくれたのでホッとした。

(杉本秀樹)

2月18日(土) 群馬県 裏妙義

参加: 37人 天気: 晴

オシドリ マガモ カルガモ トモエガモ オナガガモ ノスリ イヌワシ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 天気も良好。参加者も多く、イヌワシに出会えることを期待して定刻9:30にスタート。途中、妙義湖では100羽近いオシドリを堪能。国民宿舎に到着。昼食中にイヌワシが登場。頭上をソワリングしたり、木の上や岩の上に止まったりと大サービス。皆さん大満足の様子でした。(中島康夫)

2月18日(土) 上尾市 丸山公園

参加: 24人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ コサギ オオタカ ハイタカ ノスリ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス セッカ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 早朝の静まりかえった雑木林で、カラ類の混群と出会った。メジロは、樹液をなめなめ、チーチーと甘い声。コゲラは、ギーンと扉をあける音。シジュウカラも、春を待ちこがれてツビー、ツビーとさえずりながら林を飛び回り、茶色の美しいヤマガラもやってきた。野鳥の森近くでは、JAY、JAYとカケスの群れがヒヨドリと大口論。珍しくコバルトブルーは飛ばなかったが、アカハラとセッカが冬の当探鳥会では初認された。(立岩恒久)

連絡帳

■ 関東ブロック会議に出席

3月25日(土)～26日(日)の2日間、藤沢市内で開かれた関東ブロック会議(神奈川県支部担当)に、松井昭吾支部長、小林みどり幹事、福井恒人幹事の3名が出席、各支部の取り組んでいる保護活動を中心に報告が行われた後、次期関東ブロック代表理事に群馬県支部の浅川千佳夫副支部長を選出する事、次回会議は茨城県支部が担当する事などを話し合いました。

■ 各地での普及活動など

連田中央公民館主催のバードウォッチング教室が、平成6年10月から平成7年3月まで全6回開催され、中島康夫普及部長と松井昭吾支部長を中心に、桜庭勇、新堂克浩、高松格、玉井正晴、中村榮男、福井恒人、吉安一彦、計9名の役員リーダーが指導に当たりました。

2月28日(火)越谷市新方公民館周辺で開催された同市教育研究会主催の理科現地研修会「野鳥を通じた自然観察」では、山部直喜編集部長が30名位の小中学校の先生方を指導しました。

3月30日(木)越谷市中央市民会館で開催された越谷市「第3回傷病野鳥飼養技術講習会」でも、山部が講師を務めました。

なお、3月号でご紹介したテレビ埼玉のレギュラー番組「野鳥」(海老原美夫副支部長担当)は、4月から月曜(午後1時30分頃)と火曜(同時刻・再放送)に変わりました。

■ 武蔵丘陵森林公園の自然を考える会からの手紙

「(前略)森林公園の自然を守るために、皆様にはご署名いただきありがとうございます。昨年12月1日公園管理事務所において所長殿をはじめ担当の方々とは話し合いの場を

持ちました。(中略)結果から申し上げますと私達が保護をお願いした東側斜面は、ツバキの植栽は中止され、手つかずのまま残る事になりました。具体的な成果を上げることができましたのは、ひとえにご署名いただきました皆様のご協力の賜物と心よりお礼申し上げます。(中略)これからも、日本野鳥の会埼玉県支部の皆様のご協力をよろしくお願いします。 武蔵丘陵森林公園の自然を考える会 谷津弘子」

■ 5月の土曜日当番(2時～6時)

- 6日 事務局休み
- 13日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 20日 工藤洋三 川奈部康子(校正の日)
- 27日 袋づめの会(1時から)

■ 会員数は

4月1日現在2,643人です。

活動報告

3月4日(土)～5日(日) 年に1度の役員リーダー懇親旅行(福島茨城方面にて)。

3月18日(土) 4月号校正作業(石井幸男、伊藤芳晴、海老原美夫、黒田佳子、桜庭勇、内藤義雄、長谷部謙二)。

3月19日(日) 役員会議(司会:菱沼一充、各部の報告・朝霞ミニサンマンションセレモニーへの出席について・研究部の新調査企画について・その他)。

編集後記

近くの貯水池にマスカラット(和名ニオイネズミ)がいるのを見つけた。大きさは50cm強で、尾が縦に平べったい。2頭。体型は私よりずうっとスマートだった。(山部)

花粉症と薬の副作用、最悪のコンディションで関東ブロック会議に参加しました。風邪と称して会議を欠席した人が1名いたけど、彼も実はカクレ花粉症なのでは。(小林)

しらこぼと 1995年5月号(第133号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断掲載はかたくおことわりします)

再生紙使用